

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 1194600134 | | |
| 法人名 | 有限会社 ライフ・ワン | | |
| 事業所名 | グループホームスワン | | |
| 所在地 | 埼玉県深谷市東方2873-5 | | |
| 自己評価作成日 | 平成29年 3月21日 | 評価結果市町村受理日 | 平成29年5月25日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|--|
| 基本情報リンク先 | |
|----------|--|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|---------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 有限会社プログレ総合研究所 | | |
| 所在地 | 埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル2階 | | |
| 訪問調査日 | 平成 29 年 3 月 29 日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「春風和顔」利用者様が和やかな表情で毎日をおくれるように、私達は春風のように穏やかな生活の場をご提供します。また、利用者に対して職種問わず全職員「やさしさと思いやりの心」で接しております。食事は職員の献立作成に基づき毎日手作りにて調理しております。後片付けは利用者にもお手伝いして頂いております。食材の買い出しは利用者も同行し近隣の産直にて新鮮食材を購入します。春から暖かくなりますので狭い庭ですが上手に活用して野菜(茄子、キュウリ、トマト、すいか、他)の種まき、育苗、毎日の世話をし成長の楽しみ、収穫の楽しみ、取り立て作物の美味しさを皆で喜びます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

食事は、利用者の状況と好み等を把握して、職員が献立を作っている。現在は、昼食を作る専門員を配置しており、職員は昼食作りをしていた分の時間、ケアに専念出来る時間が増え、利用者により良好な関係が築けるようになった。また、利用者が食の楽しみも味わえるよう、品数を多く、見た目からも食が進むようきれいに盛り付けする工夫がされている。リビングの大きな掃き出し窓から庭に繋がるスペースに、今年度、屋根付きのウッドデッキを造った。リビングと一体化しており、利用者が気軽に外気浴ができる心地良い空間となっている。庭には、畑のスペースがあり、春に向かって作業の準備を始める予定である。自治会に加入し、ゴミ収集所の掃除や回覧板、お祭りへの参加等、地域の一員として普通の暮らしをしている。顔みしりも出来、散歩時には、挨拶を交わし馴染んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 地域密着型認知症対応型生活介護の特性をいかして利用者に「やさしさと思いやりの心」を職員共有して実践しております。 | 利用者との日常の時間の中で、ゆっくりした時間を持つことができるようになり、以前より利用者との関わりが増え、話しやすい環境になった。理念についての話し合いで変わって来た。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 週4日近所のゴミ集積所へのゴミ出しは職員と共に一緒にゴミ出しへ行き近隣の住民と会話しております。また、近隣の神社の大祭、初詣で参拝に参加して交流しております。 | 出来る利用者が、職員と一緒にゴミ捨てに行く。掃除当番は職員が行っている。神社の春、秋祭りに出掛け、神社のステージのカラオケ大会を見たり、初詣の時には、甘酒の振る舞いを希望者が楽しんだ。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 認知症実践者講習修了済の職員より運営推進会議時、認知症の理解を深められるように支援しております。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議の回数は少ないのですが開催時自治会長、民生委員地域包括支援センター等当該施設の実践状況を報告と共に意見交換を行っております。 | 自治会長、民生委員、地域包括支援センター参加の下、実施している。行事の報告や介護度等の現状報告の上、空室情報などの話をしてアドバイスを貰う。避難訓練と抱き合わせた会議には、家族の参加があった。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 利用者の半数以上が生活保護者であり深谷市福祉課保護係と特に交流が深く介護保険証の提示、認定情報、施設サービス計画書の提出など密接の関係を築いております。 | 市の窓口には直接行き、話をしている。利用者が関わる制度に関しては、直接市に聞くようにしている。認定代行や変更手続き等は、介護支援専門員が行うが、その際に利用者が使っている制度について聞いている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束を行わないのは当然であり、玄関の施錠は保安上内側から施錠してありますが、利用者も開けられるようになっております。 | 何が拘束で何が拘束でないかは、直接伝えるようにしている。特に呼び方については、個人的に注意している。基本は名字で呼び、信頼関係の構築に努めている。トイレのパッドの置き場も、個人を特定されないよう見えない場所で保管している。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | オムツ交換時、入浴介助時利用者一人一人の変化を見逃さないようにヒヤリハット報告書の作成を義務化しております。提出時は職員全員に回覧し情報の共有化をしております。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 職員会議の議題の一部として権利擁護に関する制度について取り入れて話し合う。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 利用者との契約時、契約の内容を説明、重要事項説明書の各項目毎に読み上げ説明し理解して頂く。最後に記名、捺印して頂く。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 日頃から家族とコミュニケーションを図れるように交流を図り、要望等気楽に申し出られるような体制を整えてあります。また、言葉に表しにくい問題等は玄関に設置してあります意見箱に記入し入れて頂きます。 | 家族の面会時には、その日出勤の職員が、今の体調、食事面、近況等を伝え、家族からの要望を聞ける様な雰囲気作りに努めている。毎月のスワン便りで細かく記して報告している。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 日頃の問題点等発覚時は連絡ノートに記入して頂き、職員全員で問題解決に取り組みます。 | 日常生活記録ノートや連絡ノートは重要として、日勤、夜勤それぞれが記入し、管理者が確認している。問題があれば職員会議で提案して意見を出してもらい、利用者にとって良い事を考えるようにしている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員が働きやすいように勤務時間等職員都合に合わせて考慮しております。社員、パート共に年2回の勤勉・期末手当の支給、経営状態に応じて臨時賞与の支給をしております。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 職員間の介護に関する情報提供の共有化、連絡調整を密に行うと共に職員会議で3は詳細に話し合う。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 他の入所施設、通所施設等の職場、職員と交流を交えて意見交換を行う。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入所相談時、アセスメント表に基づき家族の希望、本人の希望を聴取し可能な限り要望に応えられるようにします。入所後も家族及び本人共に安心、安全な暮らしが出来るように支援します。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 家族が困っていることを相談されたなら内容をしっかり聴取し家族との信頼関係の構築に努力しています。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人及び家族の求めている支援を見極め可能な限り対応して不安の無い生活を送れるように支援する。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 職員は介護させて頂いている立場であるが、家族同様の関係を構築すると共に信頼関係も築く。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 職員は家族ともなんでも話せる信頼関係を築き家族が思い悩むことのないように支える。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 本人が人生の中で大切にしてきた人や物、買い物、レジャー場所等継続して交流出来るように支援します。 | 昔からの友人から手紙が定期的に届き、楽しみにしている方がいる。時には、息子さんから電話を入れて貰ったりし、関係継続の支援に努めている。家族や、親戚との外出支援も行っている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者同士のコミュニケーションを図れるように支援しレクリエーション開催時は強要しなくても全員が参加出来る雰囲気づくりを作る。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 家族及び本人から連絡のあった場合は相談に応じています。少し間の空いた場合は様子伺いの連絡を入れます。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 施設サービス計画書作成時には本人及び家族の希望を聴取して希望に合わせたサービス計画の作成。 | 「何となく昔こんなのが好きだったのかな」等、利用者の方へ、色々な場面を想定しながら本人、家族から話を聞き、職員会議等で話し合い、本人の望む支援を提供している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入所前相談時、アセスメントにより過去の人生歴や生活環境を聴取して把握し生活指導を行う。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 各人毎に無理の無い本人に可能な事をお手伝い、趣味のカラオケ、レク体操、ゲーム等行い心身機能維持向上に努める。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 9人の居室担当者を割り振り、個々に日常生活を把握して処遇会議に提出して皆で情報を共有化してより良い介護を実践する。 | 居室担当者の話を聞きながら、介護支援専門員が介護計画を作っている。各職員の意見を貰い、それをもとに職員会議で話し合い、現状に合ったプランを最終的に介護支援専門員が作りかえる。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 利用者別に日中の様子、夜間の様子をボールペンを色訳(黒・赤)して記録し職員間で状態を共有化して今後の介護計画に役立たせる。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 施設内のサービスに捉われないで外出行事(外食)等変化に富んだ生活を食事と共に味わって頂くよう取り組んでいます。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 近隣に公園墓地があり天気の良い日は職員同行で行きます。途中、畑作業の人と話し合い作物や昔話で交流します。寺(七福神)では他の参拝者と交流し楽しめます。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入所前のかかりつけ医への継続的に受信希望ある場合は引き続き受診して頂き、かかりつけ医の変更可能ならば当施設指定の協力医療機関への紹介状の提出により変更します。 | 月2回の訪問診療がある。病院は自由に選べるようになっている。基本かかりつけ医への受診は、家族対応だが、職員の同行もある。歯科は訪問診療を利用している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 容態の変化、急変等即看護師に相談、指示を頂き必要に応じて病院へ連絡ドクターの指示を仰ぎます。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 日頃から協力医療機関と連携を密にして急変時は入院できるような関係を築き、情報交換に努めております。必要書類等は即お届けするよう行っております。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化した利用者の場合は家族と話し合いの時間を作り、施設と家族の協力体制を整えておく、その場合、家族の意向を十分配慮して情報提供も行う。 | 入居時に重度化、終末期の対応方針の説明をしている。重度化の場合は、家族の意見に十分寄り添い、医師、看護師、職員と話し合いながら、本人にとって何が最善かを考えながら支援していく。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変もしくは事故発生時には緊急時の対応策を職員全員が出来るように周知徹底を図る。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回消防訓練を実施して防災に関する意識向上を図る、地域との関係は自治会に加入し同一班のお付き合いを行っております。 | 消防署員立ち会いの下、年2回避難訓練を実施している。水害に関しては、参加者に向けて消防が話をもらった。非常用持ち出し袋、備蓄は用意され、発電機を所有している。 | 現在は、昼間の火災訓練が多いため、夜間を想定した訓練を実施し、更なる災害対策強化を期待したい。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 利用者は9人9色の方が入所しております。長年の人生の生き方が異なります。その人の合った、その人らしく暮らせるように声掛けや生活指導に努めております。 | 特に呼び方については、個人的に注意している。基本は名字で呼びかけ、信頼関係の構築に努めている。トイレのパッドの置き場も、個人を特定されないよう見えない場所で保管している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 日常生活の中で介護保険制度に準用してその人らしく利用者本位にものを考え、可能な限り自己決定して頂けるように努めております。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一日の流れの中で全て利用者本位に考え食事の時間もゆっくりの人には時間をかけて食して頂いております。入浴も無理やり強制は行いません。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 毎日の着替えは利用者の希望に沿った衣類の選択指導、整髪は支援します。また定期的に衛生介助を行っております。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 献立作りに利用者の希望を取り入れ(比較的麺類が多い)調理は衛生上の問題もあり、後片付けは利用者にお手伝いをお願いしております。 | 昼食は専門職員が作り、下膳、食器拭き等を利用者も行っている。時間がかかる方は、少し早めに始め、ゆっくりでも自分で食べて貰うようにしている。利用者の希望を聞き、献立を作る。そば、焼きそばが多い。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 栄養バランスは献立作成時に考慮、個別に食事摂取量のチェック、日中の水分摂取量は定期的に補充、偏らない食事に努めております。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、口腔ケアを援助して口腔内の清潔保持、歯肉炎予防に努めております。定期的に訪問歯科の受診体制も整っております。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 定期的なトイレ誘導を行いオムツを濡らさないように指導援助を行いオムツの使用頻度の減少に努めております。 | 排泄表を利用して、トイレでの排泄を目指している。できるだけオムツ使用にならないように、季節によりパッドの使用頻度や容量を変え、個々に対応出来るようにしている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 便秘の予防として個々排便記録チェック表を活用して水分等飲食物で調整を図ります。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 原則的に個々に入浴日は決めてありますが、本人都合で入浴できない場合等自由に入浴日の変更可能となっております。また土曜日は入浴希望者入浴日となっております。 | 入浴は2回以上で、現在拒否のある方は居ない。衣服の着脱からマイペースでできる。入浴出来ない方には、清拭で対応している。季節により柚子湯、菖蒲湯を楽しんでもらい、入浴剤は毎日利用している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 原則的に13時からお昼寝タイムですが、強制するものではありません。また別の時間にお休みする人もあります。どちらにしても援助しております。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 服薬は全て職員管理となっております。毎回、服薬援助を行い、誤薬の無きように個別管理しております。処方箋により効能等の理解も深めております。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | お手伝いの出来る喜びを感じられるように、朝のゴミ出し、毎食前のテーブル拭き、お手拭きの配布、食後の下膳、洗濯物を干す、乾いたらたたむ、等その人に合ったお手伝いをお願いし気分転換の援助を行っております。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している | 家族に協力を頂き年に数回ご自宅へ外泊、外出しています。外出行事(ドライブ・食事会)に全員連れ出します。また交代で食材の買い物時には同行させて気分転換を図っております。 | 天気が良い日には、近くのお寺に散歩に出かけている。広い庭に、ウツデッキを作り、利用者が外気浴を楽しめるようにした。近くの公園へ、お弁当を持って出掛ける事もある。家族と一緒に外食される方もいる。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 職員の同行して買い物に行き、自分の目、手で確認して選び買い物の喜びを感じることが出来る。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 施設より家族へ発行する「スワンだより」に本人の手書きの手紙を同封することが出来る。電話連絡希望時にはプッシュボタン援助しております。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共用のリビング季節を感じる飾りや誕生月の利用者をボードにて公表して皆様に喜ぶ。飾りつけにも変化を持たせてあります。 | リビングのテーブルの配置は、本人の希望に合うように考慮して決めている。リビングの飾り付けは、極力少なくし、季節に応じた生花や窓から見える風景等で四季を感じられるようにしている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | リビング内にソファ、テレビが設置してあり、テーブルでは個別の会話も楽しめます。また個々に一人でのんびり過ごす人もおります。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 長年利用してきた家具等持ち込み自由となっております。自分の部屋であると実感して頂けると思います。 | 昼食後は居室スペースに移り、昼寝をする方、新聞を読む方、チラシを見て過ごす方、ラジオを聞く事を習慣としている方等多様である。運動会の賞状、メダル、家族の写真を飾るなど、個々の居室作りを支援している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 建物内部はすべてバリアフリー化しており安全移動できます。安全生活出来るように環境づくりに支援しております。 | | |